

Custom Inspiration

Custom Bike

LEVOLVER

Custom Shop

Selected Custom Motorcycle

text/A.Takeuchi 竹内淳 photo/T.Masui 増井貴光
問い合わせ / セレクトッド東京店
TEL03-6424-8265 www.selected.co.jp

Spec

フレーム	H-D ストレッチ
エンジン	スクリーミンイーグル 103
キャブレター	S&S スーパー G
点火モジュール	ツインテック
マフラー	セレクトッド S ショット
ミッション	ベイカー オーバードライブ6速
一次ドライブ	BDL
Fフォーク	ストーツ×セリアーニ倒立
リアサス	サンダンストラックテック
Fホイール	PM ガッサー 21 インチ
Fブレーキ	ブレンボ 4ポッド
Rホイール	PM ガッサー 18 インチ
Rブレーキ	ブレンボ ラジアルマウント

普段は現代の流れの中で光を放つ一台と、ビルダーのこだわりを紹介しているコーナーだが、今回はカスタムを依頼するユーザーの立場で話をしたい。というのは今回のバイクは編集長のボクがクラブ・ハーレーを作る中で思い描いた一台だから。「竹内さんのエンジン来ましたよ」え、頼んでないんですけど!? セレクトッドの西岡さんに声をかけられたのは2年ほど前。ジョイントでクラブ・ハーレーピックを手渡した時、いつかボクのバイクも作ってくださいね、と言ったのを覚えてくれていた。ショップに置かれていたのは、スクリーミンイーグルの103にベイクアのオーバードライブ付き6速。これをソフテイルに積むという。110じゃないの? とも思ったが、103は日本未導入、しかも高速度を楽に走れるミッション、というツボを突いたセットアップ。4速シヨベルで高速度をがんばって走るのがずっとと嘆くワタシの記事を読んでくれているのが理解できた。

もちろん、味わい深く強烈な乗り味、ボクにオートバイのことをいろいろと教えてくれるシヨベルを手放す気などさらさらしない。その上でもう一台買ったら、疲れ知らずのツインカムが欲しい、と言う視点でハナシ。これが一台だけならインジクションのツインカムを買ってまずエンジンと足回り...という道を選ぶ。ベクトルは異なるけどどちらもハーレー。旧車の誘惑、ツインカムの魅惑とはそういうことだ。

おいしい餌をぶら下げられたとはいえ、はい、そうですかと言える買い物じゃない。マッスルカーを売り、貯金をはたいて、駐車場代をローンにまわしてと算段がついたのは1年後。なんていうとんでもない値段を想像しちゃうけれど、中堅のメルセデスを新車で買うようなもの。そんなの山ほど走っているし、ローンが返済した現代の日本なら、誰でも払える金額。ガレージビルドで自分で作れるアメリカと違い、プロに仕事としてお願いするわけだし、パーツにも値段がある。ちなみにアメリカで人気のビルダーに頼めば、それこそフェラーリだと聞く。要は本気になれるか否かだ。

旧車の誘惑、ツインカムの魅惑。

セレクトッドと出会ったのは、クラブ・ハーレーを手がけることになった初めての号。ヨコハマの港に明らかに異彩を放つ2台が現れ、え、ツインカムってこんな風に見えるの? と衝撃を受けたのを覚えている。走りを感じさせるビースメーカーと、美しさの際立つロイヤルクラウンの2台。足して2で割ったヤツがアタマの中で理想になった。



セレクトッド代表の西岡さん。「自分がとにかくハーレーで走りたいから、お客さんをつけてこさせたいんです」とオーナーが求めるものを引出しながら、永く乗りつづけられる工夫を凝らしてくれる



テールライトはサイドだと右車線のクルマから見えにくいこともあるので、トライジャの高輝度LEDをフェンダーに埋め込む。美しい佇まいは、スタイルばかりがアタマにあるオーナーの求めるものを引き出しながら、永く付き合えるバイクを作るビルダーの苦労の塊でもある



「ハンドシフトは慣れも必要でUターンとか半クラッチが必要な場面では辛いですが、でも操作してっていう面白さがある楽しいですよ」と西岡さん。ワタシが乗りこなせるよう練習にも付き合ってくれていまス。



エンジンはアメリカのチューナーの下で一から組み直され恐ろしくスムーズ。スーパーGにオリジナルのファンネル。セレクトッドのロゴをモチーフにしたSショットマフラーは、2インチ径のヒートガードと1-3/4パイのマフラーとを全く同じ形状で作らなければならない高度な技術を必要とするもの

ツインカムの美しさを引き出す鍵は旧車の美学を知ることにある。

カスタムを依頼するオーナーのアタマに描かれるバイクは、だいたい漠然としているもの。雑誌や映画で見た一台とか、このビルダーの作るカチが好きとか。そんなもんだと思う。ボクのアタマもその程度。ロランド・サンズとか、トム・フォスターとか、インディアンラリーとか、旧車のセオリー、ハーレーの伝統を感じさせながら、明らかに走り重視したと分かるカチが好き。ジェシー・ジェームズですら自身のフレームにナックルを積む現代。これから新旧2つのカチはどんどんクロスオーバーしていくだろう。だからフォロムは、突飛なモノより、そんな先人達へのオマージュに留め、ツインカムの可能性を示せるモノにしたかった。アーティスト肌のビルダーさんなら、ダメだよそんなの、と一括してしまう人もいるだろうけれど、西岡さんの答えは違った。

「なら、先人に劣らないクオリティを誇れるモノにしましょう」その一言で心は決まった。チョップバーはフレームありき、ツインカムはフレームが美しくないと、という話をよく聞く。確かにリジッドフレームは単体で見ても美しい。その美学をツインカム・ソフテイルに持ち込んだらどうなるか？ それがボクが試してみたかったコト。オーナーはそんな漠然とした考えだけど、それを汲むビルダーは大変だ。エンジンマウントを兼ねる純正風のラグはエボまでは鋳物のパーツが出てくるけれど、ツインカムのフレームは旧車の鋳物の部分ぐらい太い。しかもラグに差し込むのはフレームの強度が落ちるのは明白。そこで分割したカバーを溶接して風に見せることで性能を落とさずスタイルを実現した。

組み始める前のフレームの段階からそんなだから、一台になるまでの苦労は計り知れない。タンクひとつでも、高速道路で遠出する容量を確保しながら、タンクの絞り具合や曲面ひとつも作業しながらボクの好みを確認してくれた上で、ガソリンの吹きこぼれを防止する加工を給油口に施したり、ボルトのハマる部分は塗装だと年月を経て割れてしまうという経験から、ニッケルメッキを全

体に施した上から塗装して、マウントラグの部分はデザイン的に残るようなアイデアを考えてくれたり、細部に渡ってオーナーが実際に乗り続けていくことを考えた作り込みを施してくれている。そんな西岡さんの苦労つづりは、次号からの製作記でお伝えするのでお楽しみに。

Lから始まるリボルバーという車名は、スペイン語読みでリボルバーの意味。弾を込めたシリンドラーのように時代は回帰するもの。先人の業やハーレーの伝統に目を向けながら、旧車を知って新しいツインカムのスタイルを切り開く。そんな引き金を引く一台であって欲しいという気持ちが入められている。もちろん新たな時代を作るのは、インスピレーションを受けて、次なるカ



Cusustom Inspiration

LEVLVER / Selected Custom Motorcycle



キングスポーツスタータンクをベースに幅を詰めながらロートネル化して純正と変わらぬ容量を確保。キヤップはケンズファクトリー



ビレットのライトケースに大人気の純正LEDを加工して埋め込み。さりげなくハーレーのロゴが入るのが嬉しいのです



ハンドルとライザーはSCMのオリジナル。操作性がいい形状。グリップやマスターは補修部品の手に入りやすいPMをセレクト



シートはブルのハンドダイングで茶芯が覗く味わい仕様。前よりに座れるよう後ろのアンコが多い、と気つかせないデザイン



SCMが使ってきた中で信頼性が高いという理由で選んだBDL。油圧クラッチは操作しやすい位置出しなど完成後も調整に苦労したそう



イチバンこだわりのフレームの純正風ラグ。ツインカムはエボよりフレームが太い！のでアフターのパーツは一切使わず、苦労してもらった部分



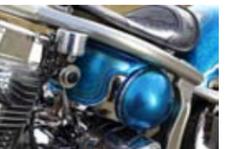
自転車のパーツを流用してシートはイージーに取り外せる。シートは錆びないようベースはパウダーコート、ステンレスのシャフトにOリングを加え、走行中にグラつくこともない。頼まなくてもここまでやってくれちゃうのがセレクトッドのクオリティ



シフターは可動部に純正のプラスチック素材のシムを流用することで、しっとりとした操作感に使い心地にもこだわった部分



ブレーキはブレンボを使ったドライブサイドブレーキシステム。強力な効きは…これから味わいます。ナンバープレートはアルミの削りだし。フェンダーのステーなどボルトのハマる場所は、塗装だと割れるという理由で、すべてメッキ処理される



オイルタンクはバレルを後ろに持つてくるセオリーにとられない発想で製作。カップめんとか色々言われましたが、見る角度によって表情を変える秀逸デザインなのです